

北緯27度

青い海と強い日差しの下で

小笠原海上保安署専門員



— 現在の仕事の内容はどのようなことですか？ —

私は東京都の離島小笠原諸島父島に所在する小笠原海上保安署にて勤務をしています。

父島は太平洋のど真ん中、北緯27度付近にポツンと浮かぶ島々の中の1つで、空港がないため、週に一度、東京竹芝ふ頭を出港する定期船に揺られること約26時間、長い船旅を経て、ようやく訪れることができるところで、私その他3名でこの島の海を守っています。

普段、事務所にてパソコンを前に事務仕事に勤しむ傍ら、いざ事件・事故が発生した際には、ウェットスーツに袖を通し、監視取締艇「さざんくろす」に乗り込み、現場へと急行し救助活動等を行ないます。そして現場から戻るやいなや関係者からの事情聴取をしたり、三管本部への報告書を作成したりと署長を含めた最大勢力4名で何から何までこなします。

この島では前述の定期船の運航会社や漁業、マリレジャー業等多くの住民が海に携わる仕事で生計を立てており、住民は毎日海と真っ向から向き合って生活しているとも言えます。我々海上保安官も、同じ海で仕事をする者として住民との関わりも多く、地域住民としっかり向き合うことをモットーに、日々の業務に努めています。

— 海上保安庁に入った動機やきっかけは何でしたか？ —

私の学力はさておき、体力だけには多少自信があったので警察官や消防士等体を張って人の役に立つ仕事がしたいと漠然と考えていましたが、海上保安庁の仕事が今ほど注目されていない頃に、何かのきっかけで荒れた大海原でウェットスーツに身を包み懸命に救助活動を行なう海上保安官の活躍を知り、当時特別泳ぎが得意ではない自分にも、こんなことができるだろうか？という不安を抱きつつも、これほど特別な仕事はない！と強く感じ、その時の思いが、この仕事を選ぶ決定打となりました。

— 海上保安庁に入って、印象に残っていることは何ですか？ —

私は8年間潜水士の任務に就いており、様々な現場に臨場した経験等、印象に残っていることは他にも多々ありますが、数少ない父島での勤務経験者としてあえて言わせていただくのであれば、現在父島で仕事をしていること自体が

とても印象深いことで、何故なら、海上保安庁に入庁していなければ、この地に足を踏み入れることすらなかったのではないかと思うからです。

仕事とはいえ父島で生活できて良かったと思えることは、強烈な日差しの下、目の前に広がる青い海、どこまでも見えるのではと思うほどの透明度の高さや、所属艇でのパトロール中に度々遭遇するクジラやイルカ、アオウミガメ等、豊かな大自然が人間のすぐ手の届く所にあるということです。その反面、沖合いで発生した台風の通り道でもあることから、台風が頻繁に島に上陸し、島に大きな爪痕を残す等大自然の脅威も思い知らされますが・・・

しかし、普段は平穏で素晴らしい海だからこそ、小・中・高各学校では海での課外授業を頻繁に取り入れており、私も小学生が海で実施する着衣泳教室に講師として招かれ、一緒に勉強したり、また、遠泳大会では子供達が安全に泳げるよう警戒を兼ね一緒に伴泳したりと、島の海上保安官として、子供達との仕事を楽しんでいます。

— これから海上保安庁を希望する人達に一言 —

今まで、潜水士等現場での業務が多かった私からのアドバイスとしては、ほとんどの社会人が陸上で仕事をし、社会生活を営む一方で、海上保安官になるという事は、あえて仕事場を海に求めることになります。海での仕事に憧れを抱く人もいますが、海上保安官の仕事は壮絶な海難現場や、荒れ狂う海の大自然の脅威を目の当たりにし、精神的にも肉体的にも中々ハードな仕事だということを理解しておいて下さい。

しかし、あらゆる苦難を乗り越えて、業務を達成できた時の喜びはこの上なく、心地よい充実感が得らことに間違いありません。

是非みなさんも挑戦してみてください！